

相生山緑地オアシスの森くらぶ ニュースレター

30号

2007.6.23 発行

発行/相生山緑地オアシスの森くらぶ編集委員会 発行人/大館 学 編集長/近藤 真史

INDEX

【本号掲載分の活動】

- 1月27日(土) ... 花の咲く雑木林 / 定例活動・雑木林の達人養成講座(第4回)
- 2月24日(土) ... アカマツ林再生プロジェクト / 定例活動・雑木林の達人養成講座(第5回)
- 2月25日(日) ... アカマツ林の整備 / 天白もりのフォーラム・フィールドサーキット
- 3月18日(日) ... 浜松市椎ノ木谷保全の会視察
- 3月24日(土) ... 第9回萌木祭り&雑木林の味わい方 / 定例活動・雑木林塾(第6回)
- 4月28日(土) ... 相生口の竹林整備&2007年度総会 / 定例活動
- 5月26日(土) ... ウッドデッキの更新&サツマイモ畑づくり / 定例活動

1月定例活動・
雑木林の達人養成講座(第4回)

花の咲く雑木林

～ツツジの園づくり植生管理～



小春日和となった1月の定例活動は、恒例の「ツツジの園づくり植生管理」。

今年度は、天白生涯学習センター講座としての開催となり、初めての参加の方があったほか、講師には「オアシスの森」の生みの親の一人でもある岐阜大学名誉教授の林 進先生をお迎え

したこともあり、40名を超える大盛況の講座となりました。

午前中は相生小学校の研修活動室での座学で、広葉樹林の更新メカニズム、里山の植生管理による種の多様性増加など、学術的資料を交えながら丁寧な説明を受けました。



▲ツツジの園で実生の生育状況を参加者に説明する林先生

午後は場所をオアシスの森に移し、まずは梅林西側の尾根上部に広がる通称「ツツジの園」で作業を行いました。ここでの作業も3年目を向かえ、当初から比較すると明らかにツツジの群落

が明確になり、今ではオアシスの森の名所の存在になっています。今回は、枯れたアカマツや日照障害となっていたソゴゴ、コナラの除伐を行い、ツツジの園のさらなる範囲拡大を図りました。

フィールドワーク後半は、見晴らしの丘の植生管理を行いました。オアシスの森開設後10年が経ち、当初低く疎に刈り込まれていた低木も今では背丈を越えるくらいに繁茂し、見晴台からの眺めも木々の生長によって周囲の町が隠れるまでになってきています。

尾根部の植生管理は、ズミ、シャシヤンボ、イソノキなど、相生山を代表する里山花木の育成を目標に、作業方法をみんなで確認しながら支障木の除伐などを行いました。

今回初めて、また久しぶりに参加した皆さんは、充実した疲労感の中、明るく、すがすがしくなった森を見渡しながら、ともに達成感を噛みしめているようでした。(真弓 浩二)

浜松市「椎ノ木谷保全の会」の方々が視察にみえました

3月18日、オアシスの森に浜松市から「椎ノ木谷保全の会」の皆さんをお迎えしました。同会は平成15年に設立され、現在会員は25名。当日は浜松市緑化推進課の方たちとともにバスでの来訪となりました。

森くらぶからは、森さん、伊藤晶子さん、真弓が応対し、概略説明の後、実際の活動の苦労話などを交えた解説

をしながら、森の中を約90分かけて散策しました。お別れの際、森さんから手づくりの竹細工をお土産に手渡された皆さんは大変喜ばれていました。

午前のみ短い時間の交流でしたが、同じ森づくりの仲間として、永い付き合いの友のように、心がふれあう楽しい一時を過ごすことができました。

(真弓 浩二)

